

第4回若葉区地域福祉計画推進協議会 会議録

日 時 平成20年2月9日(土) 午前10:00～午後0:00

場 所 若葉保健福祉センター3階 社協大会議室

委員定数：32名 出席委員数：17名 傍聴人：5名

事務局：8名

【1】次第

- 1 開会
- 2 保健福祉センター所長挨拶
- 3 議題(1) いずみ台ローズタウンにおける相談支援体制づくり「よろず相談」の実施について発表
 - ・情報交換
- 4 その他
 - ・地域福祉活動事例集の作成について
- 5 閉会

【2】議事の概要

- (1) いずみ台ローズタウン自治会における相談支援体制づくり「よろず相談」の実施について発表
いずみ台ローズタウン自治会長、生活改善委員会委員から「よろず相談」の実施について発表があった。
 - ・情報交換
質疑応答に変更し、各委員から活発な質疑がなされた。
- (2) その他
 - ・地域福祉活動事例集の作成について
事務局から報告があった。

【3】発言要旨

- 【「議題(1)」いずみ台ローズタウンにおける相談支援体制づくり《よろず相談》の実施について発表」における質疑応答】
- (委員長) 19年度の地域福祉計画推進協議会も4回目を迎えました。事例を通して皆様方のお住まいの地域で具体的な活動が実践されているということを知ることができ、大変有意義な会を設けることができたと考えています。
本日もローズタウン自治会の皆様から貴重な体験をご報告いただいて、今後、この活動が広がっていくためにご協力をいただくということになっています。
それでは、メンバーのご紹介の後、ご発表いただきたい思います。
- (自治会) この2年間、当委員会におきまして地域活動の活性化を図るため、自治会と積極的に連携してまいりました。本日は今年度の自治会長、「よろず相談」の元である生活環境改善委員会の3役4人に来てもらいました。
2年前、先進団体である「貝塚北部自治会の福祉を考える会」に地域のボランティア活動をいかにして進めていくかということをお聞きしてからまだ1年ちょっとしか経っていませんので、質疑の中でご意見を頂戴しながら完成度を高めていければと思います。
- (自治会) 自治会長が毎年入れ替わる中で、自治会活動を持続的につなげていくためには常に途切れることなく進めるための組織が必要ということで、いずみ台ロー

ズタウン自治会では専門別委員会制度を取り入れています。生活環境改善委員会はそれにあたり、今回報告する「よろず相談」事業は生活環境改善委員会の中の一部会という位置づけです。昨年の5月位から始まり、10ヶ月以上経ちました。

私は直接参加しておりませんが、自治会の立場からみても活動が順調に進展していると思っています。皆さんにご意見をいただいて更にいい運動に仕上げていきたいと思います。発表する機会をいただきありがとうございます。

(自治会)

毎年自治会役員が変わる状況で、継続的な仕事ができず困っていたことから、十数年前に生活環境改善委員会を立ち上げました。

最初は福祉のことはやっておらず生活環境(道路・上下水道・交通の問題等)の整備に向かって活動していました。これまでの生活環境の懸案事項が解決してきこともあり、別の視点で地域を見てみたところ、地域住民の急速な高齢化という問題があり、実際に生活に不便を感じている高齢者がいることに気が付きました。

2年前に委員長を引き受けてから高齢化した自治会に対してどういうことができるのかということを考え、この活動を進めていった方がよいのではないかとということで、今こちらにいる3人に提案し、一昨年から新しく事業に取り組んできました。

実際に活動はまだ十分ではないが一つひとつできる範囲で解決していきたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻をお願いしたい。これからの活動の総体について副委員長・事務局長から説明いたします。

(自治会)

当団地も一気に高齢化が進み、気が付いたら65歳以上の高齢者が4割以上になっているという現状に驚きました。日々のごみ出しもできないとか、電球が切れても取り替えられないという要望も発生してきました。ローズタウンは坂や階段も多く、交通もバスが1時間に1本、区役所に直接行くことができるバスもないという、皆さんの想像している団地よりもはるかに大変な場所です。団地の中に商店街があったものの半分は閉店してしまい、買い物に行くにも不便なところ。このような環境が、助け合いの組織が育つ背景にあります。

この活動も行政からのお仕着せでない、自然発生的に住民の要望が結集してできているため、非常に足腰のある根強いものがあると思います。その点を皆さんに理解していただきたい。事例の発表は事務局長から、質問は私がお受けいたします。

(自治会)

今日は実際に活動している服装で来ました。この帽子は防犯パトロールにも使っていますが、このようにできるだけ目立つスタイルで活動しています。

それでは、委員の皆さんにお配りしている資料に添って説明させていただきます。

以下説明

役員の任期は2年だが、ボランティア活動は防災・防犯部の下部組織である「防犯パトロール隊」や日赤奉仕団が中心となっている「ひまわり会」など、恒常的に活動をしている組織もある。また、民踊会、体操クラブ、子ども会など14の同好会がある。

実施に至るまでには、高齢化の課題について、毎月自治会で会合し同好会や民生委員にも参加してもらい、いろいろと議論を戦わせてきた。

次に、事業の概要について、実施の範囲、実施機関、実施計画、予算措置、実施状況の説明があった。

平成19年5月7日から7人の相談員により曜日担当制で365日24時間体制で行なっている。また、曜日担当者の方がどこで受けてもいいように携帯電話を持ち、離れたところにいる場合でもコーディネーターにつなげることにな

っている。電話代は固定電話の方に請求されるので、自治会から費用を出している。

社会福祉協議会からパイロット事業で10万円の補助を頂き、大変な武器になった。相談は月平均10件ぐらいで、それほどの件数ではないがこういうシステムがある、ということで皆さんの安心になるのではないかな。

事前に記名・年齢を記載してもらったアンケート調査を実施したが、61%の回答があった。防犯パトロールの際の見守り、声かけ、ちょっとした買い物の代行、朝のごみ出し、庭の掃除・草取りなどの希望が多かった。

ある程度専門性を要する支援については、庭木の手入れ、ちょっとした困りごと相談などが多かった。

移動支援についてはまだ実施していないが、利用者と支援可能者の数のバランスはとれているので、自家用車が良いのか、団地内に個人タクシーの方がいるので協力をいただくか、やり方を協議している。

費用負担の考え方について、利用者側からは実費以外に何か負担した方がよいという声もあったが、現在はある程度経費(実費)のみいただき、支援者への報酬はなしということで考えている。

利用希望と支援参加希望者の状況は、即利用希望10人、将来希望139人、に対し、即支援可能90人、将来支援可能98人であったが、とにかく今のうちから体制整備が必要との意見が多かった。

「よろず相談」の内容について、受付方法は自治会館の玄関脇の管理人室に電話を設置、または、転送された携帯電話にて受付しているが、件数の少ない最初のうちは電話代等の経費は自治会に頼るしかないという状況である。料金については、日常生活に関わるものは無料とし、いくらか技術を要するものは有料としている。例えば、包丁砥ぎ1本200円、その他は実費+利用料としている。利用料は人数に関係なく、1時間以内300円、半日作業500円、1日作業1,000円としている。庭木の手入れなどは、個人支援する側が65歳以上なので体力的に早く終わるようできるだけ多くの人を集めて短時間で片付けるようにしている。その場合でも、人数が何人行っても関係なく時間で換算している。

現在「よろず相談」事業を実施しているが、17年度に結成された193人の隊員からなるいずみ台ローズタウン自治会の「防犯パトロール隊」が土台となっている。

(委員長) ご質問からお願いします。

(委員) ローズタウンには民生委員さんが2名いると思うが、その方々との連絡体制はどうなっていますか。

(自治会) 特段、自治会と民生委員との会議が定期的にはないが、ほとんどの自治会活動の中に民生委員の方が参加しており、実質的には密接な連携が取れています。

(委員) ボランティアとして「よろず相談」に関わってくれる人は何人いるのか。

また、これから事業を継続していくためにも人員の確保がキーポイントとなると思うが、そのような人を発掘する工夫があれば教えてほしい。

(自治会) 現在32名の登録があり、生活環境改善委員会や自治会役員などの身内の中から出てきています。

5月から12月で91件の依頼があり、現在の件数であれば今の人員で足りると思うが、今後は件数が増えることが予想されるので、もっと沢山の人の協力してもらう必要があると思います。

活動しているうちに手が挙がったり、口コミで輪が広がるようなイメージで考えています。

- (委 員) 資料を見る限り庭木の手入れが全体の24%と多くなっているが、切り落とした枝の処理はどうしているのか。また、枝が伸び放題の家の持ち主からは申し出ないが、周りの人から「枝を切って欲しい」と依頼があった場合はどうするのか伺いたい。
- (自治会) 庭木については、作業時間を1時間に限定し7～8人を動員し作業を行なっています。切り落とした枝は1m以下に切って家庭ごみとして月曜日、木曜日の週2回に普通に回収してもらおう。大量にでた場合には、数回に分けてごみステーションに持ち込んでいます。
- 空き家の場合は、市を通して持ち主に連絡を取ってもらい切っています。住人がいる家はお願いをして切らせてもらっている。断られる場合もあるが、基本姿勢はあくまで「お願い」です。
- (委 員) 依頼件数累計91とあるが、リピーターか、すべて新規の利用者なのか。
- (自治会) ほとんどが新しい方です。枝切りは春と秋にやるお宅が数件ある。包丁研ぎも好評。新しい事業としては自転車のパンクを直せる方の手が上がったのでそういうサービスも始める予定で、新規の利用者が増えることが見込まれます。
- (委 員) 大宮台2丁目・3丁目ではごみ捨ての難しい高齢者に対し、大宮台小学校の子供たちが手を挙げていたケースがあるが、同じ学区のローズタウンではどう扱っているのか。
- (自治会) ごみ出しの件はアンケートでも要望が多かった。今のところまだ元気な方が多く、周りの方が協力してくれているため、子ども達の手を借りることは考えていない。
- 階段や坂が多いところでは高齢者が階段の下にごみを袋ごと落としておき、近所の方がステーションに持っていくということで対応しているようです。今まで元気だったが怪我をした80代の高齢者夫婦ケースでは手すりをつけることで対応し、その時は介護保険からの助成を受けるまでお手伝いした。
- (大西局次長) この事業を今後続けていく上で、市に対してご要望はありますか。
- (自治会) あくまで個人的な意見だが、「よろず相談」などは住民からの切実な要望があって成り立つ部分が多い。行政の方から何をしなさいと言われるものでは長続きしない。
- ローズタウンは非常に不便でお店もなく、銀行や病院に行くにも苦労しており、買い物に行くにも千城台まで500円では往復できない。2人で千葉に出かけてもバス代だけで2千円近くかかる。高齢者が区役所等に行くにも不便で、コミュニティーバスのルートにも入れてもらえなかった。
- 介護保険も国の制度ではあるが、補助といってもいったん費用負担があるし、返ってくるまで2か月もかかることや手続きの面倒くささなど、高齢者を相手にする時にはもっと考慮して欲しい。そういうところに目を向けた方策をお願いしたい。
- (委 員) 庭木の手入れをするときにパイロット事業を利用したとのことだが、NPOなどを設立する際にお金を出す仕組みがないように思います。
- 自分達もパイロット事業で健康講話会などの事業を行なったが、10万円の補助は非常に大きかった。行政のバックアップ(予算措置)が必要ではないか。雰囲気だけではなく身銭を出す仕組みづくりを考えて実践して欲しい。
- (委員長) 実践を踏まえてのご要望などはありますか。
- (自治会) 継続する仕事をするには何としても仲間づくりが必要であるし、お金も必要になってくると思う。
- (自治会) 自主防災にも絡む話だが、本当に助けなければならない人のリストがない。そういう人たちはなかなかものを言わないし、個人情報保護の問題からリストをもらえない。小さい町の中で連携をとり、何かあったときは防災組織が動き

出すしかない。また、一部の有志でリストを作ろうとしているが課題で終わってしまっている。

行政の方には通り一遍に出せないということではなくいかにしてだせるか、という知恵をいただきたい。

(自治会) 自治会の活動は自治会費ですべて賄っているが、今年は寒くて光熱費が相当掛かっている。自治会館の会合などが増えるために、電話代も45万円位掛かっている。その面の援助についても考えて欲しい。これまで、事務費はもらえたが光熱費については配慮がなかった。自治会活動は活発になればなるほどお金が掛かるのが実情だ。市の自治会協力費では不十分なので、運営費の支援をお願いしたい。

(委員長) (同様の事業をやっている貝塚北部自治会の所属の委員に対して)
ご意見はありませんか。

(委員) 一年間の成果は素晴らしいもので、私の方こそ電話や料金設定など参考にしたい。移動支援を持ち越しているのはよくわかりますが、私の方ではそれを承知でやっている。どのように具体的に法的なものをクリアしてやっていけるかが問題。良いことをやっているのに不安なのはたまらない。その問題は市社協なりにつっこんでいてもらいたい。他の市町村ではやっている。千葉市は腰が重いのではないか。行政にも力を入れてやって欲しい。ビジネスライクに応益負担していただくというのも良いという世の中の流れもあるので検討されてはいいかがか。市の出前講座を利用して良かったことがあればご紹介いただきたい。

(自治会) 移動支援については頼んだ方も頼まれた方も良かった、という充実感をもてるような形でなるべく早く始めたい。

出前講座はメニューを検討した結果、2つに決め個々に申込んだが個人情報保護の講座は非常に勉強になった。

【「その他 地域福祉計画活動事例集の作成について」における質疑応答】

(事務局) この事例集は千葉市で実践されている地域福祉活動を紹介するもので、これから新たに活動を始めようとしている方々やこれまでの活動を更に広げていこうと考えている方々に、事例から学ぶ地域福祉活動のヒントとしてお役立ていただくことを目的に発行いたします。発行に当り、区の推進協の皆様には第1回の会議におきまして編集協力員として2名を推薦いただき、編集会議への出席、取材等にご協力いただきました。

また今回若葉区では2事例、貝塚北部自治会、シャローム若葉の活動を紹介しておりますが、取材にご協力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

事例集の概要についてですが、名称には市民の皆様にしみを持ってもらうため、「始まっています!! “ささえ愛・たすけ愛”」という副題をつけています。内容は、各区2つの事例(2団体)を取り上げ合計で12事例を掲載しています。内訳は、千葉市社会福祉協議会地区部会の活動を3事例、町内自治会の事例を4事例、NPO法人(特定非営利活動法人)の活動を4事例、社会福祉事業者(高齢者福祉施設)の活動を1事例紹介しています。出来あがりにはA4版32ページ、カラー表紙、本文2色刷りとなります。これを4,500部作成し、保健福祉センター、福祉事務所及び社協の区事務所で配布するほか、市内の公共施設(図書館、公民館、コミュニティセンター等)で市民の皆様にご覧いただけるよう対応いたします。

その他、市内の民生委員さん(約1,500人)、全ての自治会(市内に約1,000自治会)、社協の地区部会の皆様方にも配布いたします。また本日皆様にご紹介させていただいた以外にも、市政だより3月15日号、千葉市のホームページ等で広報

する予定です。冊子の中身の紹介ですが、若葉区では貝塚北部自治会の福祉を考える会「笑顔でつながる安全・安心・支え合いの輪」の活動紹介では活動のきっかけ、活動状況の報告、主な活動内容の紹介、どのようにして仕組みが成り立っているのかを、写真入りで詳しく掲載しています。シャローム若葉さんの施設が行う施設開放の様子を、“おげんきくらぶ”、“ふれあいサロン美助人”の活動を通じて紹介しています。

他区の状況は、中央区は社協東千葉地区部会・社協白旗台地区部会の活動、花見川区は西小中台自治会のたすけあい委員会「生活支援サービス」、同じく鷹の台自治会の高齢者に対する支援活動を、稲毛区では山王地区部会の子育てサロンを中心とした子育て支援の取り組み、NPO 法人ひだまり障害者支援の活動、緑区ではNPO法人すこやかネットみどりの福祉サービス、大椎台助け合いの会の生活支援活動、美浜区は2件ともNPO法人でちば地域再生リサーチのコミュニティビジネスの紹介、子育て支援グループハミングちばの子育て支援活動を紹介しています。

編集協力員の皆様と保健福祉総務課職員で作成し、取材した際の率直な感想なども盛り込まれて手作り感のある、市民の方々の目線により近いものになっているのではないかと考えています。この冊子は3月17日から配布が始まりますので、皆様方も今後の活動の参考としていただければと思っています。

(委員長)

作成に関わられた委員の方々、ご感想等ございますか。

(委員)

2枚写真がでておりますが、2枚目は地震の転倒防止の対策で、このつかえ棒をしている方は前自治会長で長年民生委員をやっていたらして、自治会長をやめた後も福祉を考える会の会長は続けていただいています。いろんな意味でつかえ棒になってくれています。福祉を支えているのかもしれません。

(委員)

貝塚北部自治会の件では特になかったのですが、シャローム若葉の件で、社会福祉事業者がやっているのは当たり前のことではないかということで、できればこの利用者や参加者の声を入れた方がよいという意見があり、反映してもらいました。とても有意義な活動になっているのではないかと思います。他地区の事例も大変勉強になりました。

(委員)

写真を撮りにいったり施設の方とお話したり、大変参考になりましたが、今回編集委員ということで参加して感じたのは、もう少し市の方が私たちに仕事をふっていただいてもいいのではということです。地域福祉推進のために積極的にいろんなことをやりたいと思っているので、私達の気持ちを汲んでいただいて、私達を利用していただいてもいいのではないかと思います。

(委員)

きれいにまとめていただきました。福祉施設は空きスペースや空き時間が探せばあると思います。そういう部分を市民の皆さんに開放して、居場所・健康づくり・生きがいくくりになったらいいなと、おげんきくらぶやふれあいサロンの活動を通じながらつくづく感じています。

地域の皆さんが出入りし、交流することで高齢者の方や認知症の方のこと、従事者の大変さなど分かりあうことができるので、何か集まりに参加してみようとか、そういう意味ではいいきっかけになっていると思います。

(委員長)

市内にはまだまだたくさんの事例があると思います。事例集は来年度も作る予定ですか。

(事務局)

せっかく良い冊子ができたので、今回の創刊号を長く使いたいという考え方、また、区レベルで事例集を作るという考え方もありますので、現在のところは未定です。

(委員長)

4,500部刷られて各自治会にもまわるということで、「自分たちの自治会でもやってみよう」という輪が広がれば、この事例集の発行の意味があると思います。

編集協力員からもあったようにもう少し私達が関与して作れるような工夫も盛

り込んでいただいて、身近な活動の報告集になるといいと思います。両委員の方、取材に応じていただいた方、ありがとうございます。是非これを活かしていきたいと思います。

(委員長) 何か他になければ、本日の議題は終了いたします。

以上、正午を以って全ての議事が終了し閉会した。